

保健福祉審議会専門分科会における委員意見対応表【成果指標についての意見を除く】

○令和7年度第1回保健福祉審議会専門分科会

凡例：①事務局案のとおり ②修正・追加・削除 ③検討 ④参考意見

No	分類	意見	対応	意見が出た専門分科会
1-1	計画推進にあたっての基本的な視点	「(4)アジアの福祉課題解決のモデルとなる」 「モデルとなりうるような取組みをしていきたい」という趣旨が。市の取組みを一つのモデルとしてアジアへ伝播させていくという視点も含まれているのであれば、他のアジア地域と知見を共有などといった取組みを、目標の中に書き込んでいくことを検討してはどうか。	④参考意見 モデルとなるような取組みを推進していきたいと考えており、いただいたご意見は今後の取組みの参考とさせていただきます。	地域
1-2	計画推進にあたっての基本的な視点	先進的な技術、AI、デジタルの積極的な活用について盛り込むべき。	②修正・追加・削除 総論の「視点」に記載を追加する。	高齢
1-3	全体	制度のはざまに落ち込む人をどうするのかという理念が見えていない。	①事務局案のとおり 総論の目指す姿で「誰一人取り残されない」社会の実現を目指すことを示している。	障がい
1-4	その他	例えばアプリなどを使い、困りごとに対して受けられるサービスが簡単に検索できるような仕組みをつくるなど、もう少し福祉に関する情報が届きやすくなるとよいと思う。	④参考意見 いただいたご意見は、今後の取組みの参考とさせていただきます。	地域
1-5	その他	「認知症や知的障がい、精神障がい判断能力が不十分な人」といった表現は、医学的・科学的に間違いないのか。差別を生みかねない表現ではないかと危惧する。	②修正・追加・削除 「不十分な人」は、「十分でない人」に修正。なお、成年後見制度の説明等において、国のマニュアルや裁判所のパンフレット等にて使われている言い回しであり、表現として問題ないと考えている。	地域
1-6	担い手・人材	「目標1【現状と課題】地域福祉活動を担う人材の不足」 将来的に、「労働供給制約社会」(一時的な人材不足でなく、構造的・慢性的な労働供給不足)となり、介護・福祉・交通などの「生活維持サービス」が構造的に機能不全になることが予測されている。そういった将来予想も踏まえ、担い手をどう増やしていくか、なぜ地域社会において担い手が期待されるのか等については、現状と課題などにもっとしっかり示してもよいのではないかと。	②修正・追加・削除 総論の「視点」に記載を追加し、施策については今後、原案を作成するうえで、記載内容を検討する。	地域
1-7	担い手・人材	医療、介護、障がい者も含めて、人材が不足しており、その対策が必要である。	②修正・追加・削除 総論の「視点」に記載を追加し、施策については今後、原案を作成するうえで、記載内容を検討する。	健康
1-8	担い手・人材	人材不足・財源不足等により、医療現場・介護現場が崩壊の危機に瀕する中、「地域での支え合い」などの文言で地域任せにしているように感じる。行政責任として、市がどのように取り組んでいくかを、もっと記載していくべきではないかと。	③検討 今後、原案を作成するうえで、記載内容を検討する。	地域
1-9	担い手・人材	福祉人材の確保が課題となる中、職員の離職を防ぐという意味でもカスタマーハラスメント対策が重要であり、地域包括支援センターにおいても、職員が安心して働くことのできる環境づくりに市としても取り組んでほしい。	③検討 今後、原案を作成するうえで、記載内容を検討する。	地域
1-10	担い手・人材	健康を支える医療現場が厳しい状況に置かれているのが大きな課題。人材確保が難しいことと同時に、医療機関そのものが存続できなくなるような、危機的な状況にある。医療現場をしっかりと守り、その基盤をしっかりとらせていくことがないと、患者が病院にかかりたいと思ってもかかれないうという状況が起こる危険性がある。市に言っても、これは国でやることと言われるが、現場で住民の健康づくりを推進する行政であるからこそ、国に対して、しっかりと意見を挙げていく必要があると思っている。	④参考意見 いただいたご意見は、今後の取組みの参考とさせていただきます。なお、人材確保については、総論の「視点」に記載を追加する。	健康

No	分類	意見	対応	
1-11	施策の方向性	「施策1-1 インクルーシブなまちづくり」 施策の方向性が①の「多様性を認め合う意識の醸成」の記載と少し異なっている。施策の方向性に「国籍や文化背景、また性的マイノリティ」といった文言を加えてはどうか。	②修正・追加・削除 施策1-1①の記載と同様「高齢者や子ども、障がいのある人をはじめ」を「年齢や性の違い、国籍、障がいの有無などに関わらず」に修正。	地域
1-12	施策の方向性	「施策1-1 インクルーシブなまちづくり」 「ソフトのバリアフリー化」は、具体的な取組みとして記載されると良いと思う。 例えば、当事者と一緒に話すなどの体験・体感の場を作る等の施策を具体的に記載するとよいと思う。	③検討 素案では「【施策1-1①多様性を認め合う意識の醸成】に、多様な人々が互いに関わり合う機会の創出に関して記載している。今後、原案を作成するうえで、具体的な取組みの記載を検討する。	地域
1-13	多様性	「施策1-1①多様性を認め合う意識の醸成」 外国人を排斥するような風潮がある中、外国人やマイノリティの人に対する差別は許さないという内容を打ち出してほしい。	④参考意見 いただいたご意見は、今後の取組みの参考とさせていただきます。	地域
1-14	普及啓発	「施策1-1②障がい理解・差別解消の推進」 地域において障がい者の特性等がなかなか分かってもらえない。昨年から始まった合理的配慮の促進事業について、さらなる普及啓発、推進に努めてほしい。	①事務局案のとおり 素案では、障がい理解・差別解消の推進の項目に記載しているが、事業実施時において、さらなる普及啓発に努める。	地域
1-15	普及啓発	「施策1-1②障がい理解・差別解消の推進」 関心のない人にはなかなか啓蒙できないという実態があるため、このような課題を踏まえ、差別解消の取組みをさらに推進してもらいたい。	③検討 今後、原案を作成するうえで、記載内容を検討する。	障がい
1-16	終活	「施策1-2①人生100年時代の生き方を考えるための支援」 エンディングノートなどについては、文字を大きく見やすくする工夫をしてほしい。	④参考意見 いただいたご意見は、今後の取組みの参考とさせていただきます。	地域
1-17	終活	「施策1-2①人生100年時代の生き方を考えるための支援」 高齢になってからではなく、幅広い年齢層の市民に終活(将来のことを考えること)に関心を持ってもらうような施策を検討してほしい。	④参考意見 パンフレットや動画の作成・普及に取り組んでいるところであり、いただいたご意見を参考に、幅広い世代への啓発を検討していく。	高齢
1-18	終活	「施策1-2①人生100年時代の生き方を考えるための支援」 社協の終活サポートセンターでは現在、対面か電話で相談対応をしているが、AIやチャットボット等を活用し、若い人でも終活相談がしやすい環境整備について検討してほしい。	③検討 今後、原案を作成するうえで、検討していく。	高齢
1-19	終活	「施策1-2①人生100年時代の生き方を考えるための支援」 「エンディングノート」について、若い世代から取り組んでもらえるように、福岡らしい新たな名称を検討してはどうか。また、紙ベースだけでなく、デジタルベースもあればよいのでは。	④参考意見 いただいたご意見は、今後の取組みの参考とさせていただきます。	高齢
1-20	終活	「施策1-2①人生100年時代の生き方を考えるための支援」 「エンディングノート」について、集いの場等でファシリテータのもと、カードなどのツールを使いながら、皆で楽しみながら書いていくような取組みも必要と考える。	④参考意見 市主催の終活応援セミナーではカードゲームを使ったワークショップを行っており、ご意見を参考にツールの普及を検討していく。	高齢
1-21	支援体制	「施策1-2②身寄りのない人の支援」 「身寄りのない人」の定義や、支援の対象、支援する側の主体、行政の役割などについて、具体的に記載してほしい。	③検討 国での議論も踏まえ、原案作成に向けて今後検討していく。	地域
1-22	支援体制	「施策1-2②身寄りのない人の支援」、「施策1-4③相談支援体制の強化」 地域包括支援センターにおける身寄りのない人の相談対応については、ライフラインが止まっている等、生活が破綻した状態で相談があることも多い。電気料金などの支払いについて、職員がリスクを抱えながら対応することもあるため、行政からのフォロー体制などがあるとありがたい。	④参考意見 いただいたご意見は、今後の取組みの参考とさせていただきます。	地域

No	分類	意見	対応	
1-24	居場所づくり	「施策1-2④孤独・孤立の防止」、「施策1-4③相談支援体制の強化」 地域の中にあるカフェ・フリースペースのような場所で、何気なく訪れた時に福祉につながることでできる場所が地域にあふれていたらよいと思う。	③検討 素案には、社会的孤立の予防や居場所・つながりづくりに関して記載している。今後、原案を作成するうえで、具体的な取組みの記載を検討する。	地域
1-25	施策の方向性	「施策1-2④孤独・孤立の防止」 社会的に孤立する人たちに寄り添う姿勢をもっと上位で示してもいいのではないか。	①事務局案のとおり 総論の目指す姿で「誰一人取り残されない」社会の実現を目指すことを示している。	障がい
1-26	施策の方向性	「施策1-2④孤独・孤立の防止」、「施策3-2②ヤングケアラー、ビジネスケアラーへの支援」 障がい者分野でも同様に大きな問題になっている。障がい分野も組み込みながら施策を検討してもらいたい。	④参考意見 今後の計画の進行管理などにおいて参考とさせていただきます。	障がい
1-27	認知症施策	「施策1-2⑤認知症フレンドリーシティ・プロジェクトの推進」 認知症フレンドリーセンターの存在や、相談内容について、十分に認識していないケアマネジャーが多い。認知症の人が活躍できる社会を実現するためには、認知症の早期段階から認知症フレンドリーセンターの支援につなげることが重要である。	④参考意見 認知症フレンドリーセンターについては、現在、チラシの配布や市政だより、ホームページやSNSでの周知・広報に取り組んでいる。より多くの専門職に同センターのことを知ってもらい、認知症の人の支援につながるよう、今後も努めていく。	高齢
1-28	認知症施策	「施策1-2⑤認知症フレンドリーシティ・プロジェクトの推進」 高齢者分野だけではなく、地域分野にも位置付けるべき。認知症に関する知識を学んだ人が活動する場は地域であり、地域の人たちが認知症を正しく理解したうえで見守り等の地域活動を行い、認知症の人とともに暮らすことが認知症フレンドリーシティ・プロジェクトの目的であると考え。	②修正・追加・削除 地域分野としてもご検討いただけるよう、地域保健福祉専門分科会資料に追加する。	高齢
1-29	認知症施策	「施策1-2⑤認知症フレンドリーシティ・プロジェクトの推進」 認知症フレンドリーセンターが福岡市民にとってより身近な施設となるよう、市民に対する認知度向上に向けた取組みを進めてもらいたい。	④参考意見 認知症フレンドリーセンターについては、現在、チラシの配布や市政だより、ホームページやSNSでの周知・広報に取り組んでいる。より多くの市民に同センターを知ってもらえるよう、今後も努めていく。	高齢
1-30	場づくり	施策1-3「共創による地域福祉活動の推進」 若い世代が地域福祉活動に参加しづらい状況もある中で、地域の様々な主体による地域福祉活動の支援促進にあたり、地域で集まる「場所」と「機会」については、多くの人たちに参加してもらえるよう、関係形成・場所づくりを意識する必要がある。	③検討 素案には地域福祉活動を担う人材の育成・場づくりに関して記載している。今後、原案を作成するうえで、具体的な取組みの記載を検討する。	高齢
1-31	環境づくり	「施策1-3 共創による地域福祉活動の推進」 平均寿命の延伸に伴い、高齢者といっても元気な人と介護が必要な人がいる。状況に応じて互いに「支える側」にも「支えられる側」にもなれる社会環境づくりが必要である。	④参考意見 いただいたご意見は、今後の取組みの参考とさせていただきます。	高齢
1-32	全体	「施策1-3 共創による地域福祉活動の推進」 高齢者の問題について、当事者以外は自分事として考えにくい。世代間の信頼関係をどのように作り、若い世代も高齢者の問題を考えていくことができるようになるのか考えておかなければならない。	④参考意見 いただいたご意見は、今後の取組みの参考とさせていただきます。	高齢
1-33	担い手・人材	「施策1-3②見守りと支え合い活動の推進」 高齢化により地域の担い手が不足している中、介護事業所が地域住民と協力し、地域を支える活動はもっと進めていくことができると思う。	②修正・追加・削除 施策1-4 包括的な支援の仕組みづくり ○多様な主体の参画促進・ネットワークづくり 「社会福祉法人、事業所、企業、大学などの…」に修正	高齢
1-34	担い手・人材	「施策1-3③活動を担う人材の育成・場づくり」 次の世代の地域の担い手をどのように育成していくのか、「地域全体で取り組む」という意識をどうやって共有していくのか、福祉局だけではなく福岡市全体で、もう一歩踏み込んだ、深い施策を検討してもらいたい。	④参考意見 いただいたご意見は、今後の取組みの参考とさせていただきます。	高齢

意見が出た
専門分科会

No	分類	意見	対応
1-35	活動の場づくり	「施策1-3③活動を担う人材の育成・場づくり」 高齢者にとっては当たり前になる昔から馴染んできた手作業や暮らしの知恵などは、若い世代にとって新鮮に映り、世代間の相互交流のきっかけに十分なりうる。インクルーシブな場の1つの手段としてあってもよいのでは。	③検討 今後、原案を作成するうえで、具体的な取組みの記載を検討する。
1-36	担い手・人材	「施策1-3③活動を担う人材の育成・場づくり」 地域カフェの運営を担う人たちが高齢化し、家族の介護や自身の病気などにより、活動を続けることが難しくなっている。人材不足により、数年後には存続が危ぶまれるカフェもあるため、早期の支援を考えてもらいたい。	③検討 素案には地域カフェなど、様々な集いの場の立ち上げや運営支援に関して記載している。今後、原案を作成するうえで、具体的な取組みの記載を検討する。
1-37	担い手・人材	「施策1-3③活動を担う人材の育成・場づくり」 地域活動に関わっていない、次の担い手候補に対して、地域活動の重要性を伝え、自分事として考えてもらうための取組みが必要と考える。	③検討 素案には地域福祉活動の必要性や重要性についての普及啓発に関して記載している。今後、原案を作成するうえで、具体的な取組みの記載を検討する。
1-38	場づくり	「施策1-3③活動を担う人材の育成・場づくり」 地域で孤立している高齢者が気軽に集まれる場所をもっと増やしてほしい。	③検討 素案には様々な集いの場の立ち上げや運営支援に関して記載している。今後、原案を作成するうえで、具体的な取組みの記載を検討する。
1-39	全体	「施策1-4 包括的な支援の仕組みづくり」 老老介護等の課題もある中で、高齢者だけでなく、日常的に介護や世話を担っている家族など周囲の人たちも含めて、包括的に支援していくというメッセージを、本施策に限らず、計画全体でもっとアピールすべき。	③検討 今後、原案を作成するうえで、記載内容を検討する。
1-40	支援体制	「施策1-4①包括的な支援体制の充実」 「にも包括」について、地域での生活を支える仕組みが非常に重要なため、その部分を重点的に検討してもらいたい。	③検討 今後、原案を作成するうえで、記載内容を検討する。
1-41	医療・介護の連携	「施策1-4①包括的支援体制の充実 ○医療・介護の連携」 看取りについては、ACP(アドバンス・ケア・プランニング)を市としてどのように進めていくのか、記載を充実させた方がいい。	③検討 今後、原案を作成するうえで、記載内容を検討する。
1-42	医療・介護の連携	「施策1-4①包括的支援体制の充実 ○医療・介護の連携」 高齢者の救急搬送が増加する中、救命救急士の数は変わっていない。特に福岡市は救命救急士が少ないと言われているため、ACPをしっかりやっていくのが非常に大事である。在宅医療も絡んでくるが、自宅で最後は過ごしたいという人も多くいるので、そういう人を無理に救急車で運ぶことはしない仕組みづくりを市からやっていければと思う。	④参考意見 いただいたご意見は、今後の取組みの参考とさせていただきます。
1-43	医療・介護の連携	「施策1-4①包括的支援体制の充実 ○医療・介護の連携」 救急搬送の際、本人の意思(心肺停止となった時に「心肺蘇生を実施しない意思」など)への対応について、市消防局で、本人の意思確認ができる書面(様式)を作成し、福祉施設で少しずつ広げていく取組みが始まっている。こういったことは、行政主導で進めていくのがあってもよいと思う。	④参考意見 いただいたご意見は、今後の取組みの参考とさせていただきます。
1-44	医療・介護の連携	「施策1-4①包括的支援体制の充実 ○医療・介護の連携」 「地域医療構想に基づいた医療提供体制の検討」とあるが、どのように進めていくのか、もう少し具体的に書いた方がいい。医療となると県の取組みが中心となるが、介護は市での取組みとなるので、介護保険施設と連携する協力医療機関の指定など、そういった部分でどのような取組みをするのか記載を充実させた方がいい。	③検討 今後、原案を作成するうえで、記載内容を検討する。
1-45	医療・介護の連携	「施策1-4①包括的支援体制の充実 ○医療・介護の連携」 ACPについて、現在実施しているマイエンディングノートや安心情報キットの配布なども本人の意思への対応につながると思うが、加えて、救急搬送時の本人の意思確認ができる書面の作成にも取り組んでほしい。	④参考意見 現在、様々なツールの作成を検討中。普及方法などについて、ご意見を参考とさせていただきます。

意見が出た
専門分科会

高齢

高齢

高齢

高齢

高齢

障がい

健康

健康

健康

健康

健康

No	分類	意見	対応	
1-46	医療・介護の連携	「施策1-4①包括的支援体制の充実 ○医療・介護の連携」 高齢者になってからACPの話をする、なかなか受け入れられないこともあるので、中学生や高校生がACPについて家族と話し合えるような場の提供も検討してほしい。	④参考意見 いただいたご意見は、今後の取組みの参考とさせていただきます。	健康
1-47	担い手・人材	「施策1-4②複合的課題に対する支援の強化」 複合的な課題に対応する、区役所ぬくもりの窓口担当職員や、社協地域共生推進員には福祉全般に関する高いスキルが求められる。計画の中に、「福祉に関するスキルを持った人材の確保・育成に努める」等の文言を追加してはどうか。	②修正・追加・削除 総論の「視点」に記載を追加し、施策については今後、原案を作成するうえで、記載内容を検討する。	地域
1-48	相談記録	「施策1-4②複合的課題に対する支援の強化」 重層的な相談体制が構築されつつある中、複合的な課題に対して、各相談機関の職員が連携できるような相談記録の共有などの体系的な部分を調整していく必要があると考える。例えば、現在は、障がい・高齢の相談記録は個々のシステムによる縦割りで、共有することができない状況がある。	④参考意見 いただいたご意見は、今後の取組みの参考とさせていただきます。	地域
1-49	普及啓発	「施策1-4②複合的課題に対する支援の強化」 ぬくもりの窓口について、必要な人にきちんと認知されるよう、もう少しアピールしてもらいたい。	④参考意見 現在、チラシの配布や市政だより、HPを活用した周知・広報に取り組んでいる。いただいたご意見は、今後の取組みの参考とさせていただきます。	地域
1-50	普及啓発	「施策1-4③相談支援体制の強化」 地域住民はどのような支援があるのかを十分に把握できていない状況がある。地域で開催されている高齢者向けの講座等に、地域包括支援センターの職員にも参加してもらうようにしてはどうか。また、地域包括支援センターをPRする方法等についても考えてほしい。	④参考意見 地域包括支援センターでは、現在も地域の高齢者向け講座等への参加や事業所等への訪問を通して周知・啓発を行っているところであり、いただいたご意見を参考に、より一層取り組んでいく。	高齢
1-51	普及啓発	「施策1-4③相談支援体制の強化」 「障がい者」という名前へのハードルが高く、障がいに関する相談機関につながりづらい事例がある。地域包括支援センターは、「いきいきセンター」という呼称があり、鳩のキャラクターもいて、地域に馴染んでいる。基幹相談支援センターについても、地域の相談窓口として、市全体で周知に取り組んでもらいたい。	③検討 今後、原案を作成するうえで、記載内容を検討する。	地域
1-52	フレイル予防	「施策2-1 健康づくりの推進」 フレイル予防は今後注力していくべき分野である。もう少し介護予防の視点を全面に出し、福岡市は介護予防に力を入れていくといった考え方を示してもいいのではないか。	③検討 今後、原案を作成するうえで、記載内容を検討する。	地域
1-53	飲酒	「施策2-1①生活習慣の改善 ○飲酒」 飲酒量が少ないほど、飲酒による健康リスクは少なくなるので、アルコールの摂取量を減らすような啓発があってもいいのではないかな。	④参考意見 いただいたご意見は、今後の取組みの参考とさせていただきます。	健康
1-54	その他	障がい者の歯科について、他の政令市では、患者の増加や従事者不足により、患者の受け入れができないケースが徐々に出現している。行政として、人材の育成であったり、理想としては、将来的に全身麻酔で治療ができるような施設があるとよいと思う。	④参考意見 いただいたご意見は、今後の取組みの参考とさせていただきます。	健康
1-55	依存症	「施策2-1④こころの健康づくり」 ひきこもりや自殺対策が中心になっているが、依存症も独立させた項目で記載してはどうか。	②修正・追加・削除 「依存症に関する正しい知識の普及啓発に努め、自助グループなどの民間団体の支援を行うことでアクセスよく早期の相談・支援につなげる。」を追加する。	健康
1-56	普及啓発	「施策2-1④こころの健康づくり」 啓蒙啓発について、研修会や講習会には興味がある人のみが参加し、そうでない人は情報を得ることができないので、関心がない人にも情報が届くような施策があってもいいと思う。	④参考意見 引き続き、市民向けの講演会や研修会、支援者研修会、啓発イベントなどを通して啓発普及を図っていく。	健康

No	分類	意見	対応	意見が出た 専門分科会
1-57	その他	「施策2-1④こころの健康づくり」 ひきこもりについて、市はひきこもりの人数を把握できてない。相談に来る人はいいが、来ない人も いる。この記載内容ではどこまで本気でやるのかが見えてこない。	③検討 今後、原案を作成するうえで、記載内容を検討する。	健康
1-58	その他	「施策2-1④こころの健康づくり」 この取組みは健康・医療分野と障がい者分野に位置付けられているが、高齢者分野でも検討が必要 である。	①事務局案のとおり 健康・医療分野において高齢者の「こころの健康づくり」も含めた検討を行っていく。	高齢
1-59	自殺対策	「施策2-1⑤ライフコースアプローチを踏まえた健康づくり ○子どもの健康づくり」 昨年の厚生労働省公表資料(令和6年の自殺者数)によると、自殺者数は減少しているが、小中高生 の数は過去最多となっており、子どもの心の健康づくりが重要である。子どもの健康という点で、依 存対策の意味も含め、スクリーンタイム(ゲーム、スマートフォンの利用などスクリーンの前で過ごす 時間)の対策を検討した方がよいのでは。	④参考意見 いただいたご意見は、今後の取組みの参考とさせていただきます。 なお、福岡市立学校においては、文部科学省からの啓発文書を用いて子どもの目の健 康を守るための周知を適宜行っている。 教育委員会が整備している1人1台端末は、SNSの利用はできない設定にしている。ま た、深夜の23時から翌朝6時までログイン不可としている。	健康
1-60	歯周病	「施策2-1⑤ライフコースアプローチを踏まえた健康づくり ○女性の健康づくり」 妊婦が歯周病になると、低体重児出産や早産のリスクが高まることも追記してほしい。	③検討 今後、原案を作成するうえで、記載内容を検討する。	健康
1-61	こどもの近視	「施策2-1⑤ライフコースアプローチを踏まえた健康づくり ○子どもの健康づくり」 成長段階にある子どもの頃(小学生から)が最も近視が進みやすく、この時期の予防・対策が重要で あるため、近視対策を加えてもらいたいと思う。	④参考意見 いただいたご意見は、今後の取組みの参考とさせていただきます。 なお、福岡市立学校においては、文部科学省からの啓発文書を用いて近視の予防につ いて適宜周知を行っている。	健康
1-62	こどもの近視	「施策2-1⑤ライフコースアプローチを踏まえた健康づくり ○子どもの健康づくり」 早い時期からの対策で、近視の進行を遅らせるのは可能だと思うので、近視対策はぜひ加えてもら いたい。	④参考意見 いただいたご意見は、今後の取組みの参考とさせていただきます。 なお、福岡市立学校においては、文部科学省からの啓発文書を用いて近視の予防につ いて適宜周知を行っている。	健康
1-63	高齢者の健康づくり	「施策2-1⑤ライフコースアプローチを踏まえた健康づくり ○高齢者の健康づくり」 高齢期のリハビリテーションについては、「リハビリ＝運動」という認識が先行し、役割や社会参加が 健康に有用であることが十分に周知されていないという課題がある。身体機能に限定せずに、生活 機能全般や活動・社会参加の記載もあるとよい。	④参考意見 いただいたご意見は、今後の取組みの参考とさせていただきます。	高齢
1-64	他局との連携	「施策2-2 健康づくりを支える社会環境の整備」 健康づくりについては、健康・医療分野の専門分科会だけでなく、地域での健康づくり、ヘルスリテ ラシーを上げるための取組みも重要。縦割りではなく、保健医療局、福祉局、こども未来局、行政全 体で考えてほしい。	④参考意見 今後の計画の進行管理などにおいて参考とさせていただきます。	地域
1-65	施策の方向性	「施策2-2①自然に健康になれる環境づくり」 介入しても介入の手が届かない人に関わっていくのが大事なので、自然に健康になれる環境 づくりをしっかりと進めていければと思う。今後、より具体的な取組みにつながっていければと考えて いる。	③検討 今後、原案を作成するうえで、記載内容を検討する。	健康
1-66	企業へのアプローチ	「施策2-2②地域や職域などでの健康づくりの推進」 医療保険者と連携した職場へのアプローチをもっと行っていくべきと思う。(例えば、職場での健診 に歯科健診をセットにするとか、なかなか難しいとは思いますが、職場での健康づくりへの助成、中小企 業への健康診査の支援など)	④参考意見 いただいたご意見は、今後の取組みの参考とさせていただきます。	健康
1-67	居場所づくり	「施策2-3①社会参加のきっかけづくりと活動・活躍の場の創出」 高齢者の居場所づくり、社会参加促進に関する施策をもっと打ち出してほしい。	④参考意見 社会参加の推進は、次期計画案の施策体系の柱の一つとしており、いただいたご意見 は、今後の取組みの参考とさせていただきます。	高齢
1-68	場づくり	「施策2-3③様々な働き方の支援」 高齢期を見据えたセカンドキャリアの形成支援について、大企業であれば社内講習等があるよう だが、中小企業や社会と関わりのない女性などには、そのような機会がない。福岡市で実施している キャリアを考える研修等が、より身近な場所で実施されるとよい。	④参考意見 シニア活躍応援プロジェクトにおいて、50～64歳を対象にセカンドキャリアのプランニ ングに向けた講座を実施しており、様々な方に機会を提供できるよう、引き続き、支援 に取り組んでいく。	高齢

No	分類	意見	対応
1-69	専門職の配置	「施策2-3③様々な働き方の支援」 高齢者の持病・症状等、個々の事情に応じたアドバイスを行い、就労や社会参加を後押しできる専門職が配置されるとよいのではないかと。	④参考意見 シニア活躍応援プロジェクトにおいて、就職活動に関する疑問やお困りごとなどをアドバイザーに相談いただける個別就業相談会の開催など、きめ細かな支援を行っている。いただいたご意見は、今後の取組みの参考とさせていただきます。
1-70	マッチング支援	「施策2-3③様々な働き方の支援」 職種ごとに、シニア層に適した仕事(短時間勤務等)を洗い出し、提示することで、企業と高齢者のマッチングがより円滑に進むのではないかと。	④参考意見 シニア活躍応援プロジェクトにおいて、シニア向けの新たな雇用開拓を図るとともに、シニアの採用に意欲的な求人職種ごとに整理し、市内14箇所設置の就業関連情報コーナー「シニアお仕事ステーション」やHPなどで周知している。より円滑なマッチングの実施に向けて、引き続き、仕事の洗い出し、周知などに取り組んでいく。
1-71	マッチング支援	「施策2-3③様々な働き方の支援」 高齢者の働き方は、ニーズの把握に加え、高齢者の知見・経験の活用が大事。また、人材不足の中小企業にとって、大企業退職後の人材の活用は重要。福岡市ならではのマッチング支援を検討してもらいたい。	④参考意見 シニア活躍応援プロジェクトにおいて、高齢者への就業支援や、企業への高齢者雇用の働きかけを行うとともに、「シニア・ハローワークふくおか」も活用しながら、高齢者と企業とのマッチングなどを実施している。引き続き、働きたい高齢者が意欲などに応じて社会で活躍できる仕組みや環境づくりに取り組んでいく。
1-72	重度障がい者支援	「施策2-3③様々な働き方の支援」 重度障がい者特別支援事業をもっと推進し、実施成果の件数を指標に入れてもらいたい。	④参考意見 民間企業側の課題もあるようで、これまで実績がない。このため、実施成果の件数を指標に入れることは難しいが、事業推進に引き続き取り組んでいく。
1-73	シニア活躍	「施策2-3⑤情報の利用しやすさの向上・意思疎通支援の充実」 ICT機器の操作に不慣れな高齢者への支援として、シニアのデジタル推進員を増やし、「シニアがシニアを教える」という取組みを地域カフェ等で幅広く展開してもらいたい。また、こうした活動が仕事として成り立つ仕組みができればよい。	④参考意見 いただいたご意見は、今後の取組みの参考とさせていただきます。
1-74	観光交流	【施策2-3②社会参加の推進】 「年齢や障がいの有無に関わらず、市内内外の観光や来訪者との交流などの観光交流に参画できる機会を創出」は大変良い取組みと考える。その際に必要なのはサポート体制だと思うが、例えば、「観光コンベンションビューロー」との連携など、様々な団体とどうタイアップしていくのか、現時点での考えがあれば教えてほしい。	①事務局案のとおり 具体的な取組みについては、今後、関係各課と連携し、検討していく。
1-75	就労支援事業所への支援	【施策2-3③社会参加の推進】 就労継続A型事業所においては、最低賃金の大幅上昇に伴い、経営体力のない事業所の存続が難しくなるケースも増えていると聞く。障がい者の自立を後押しをするという本来の目的にそった運営ができるよう、市も支援してもらえるとよいと考える(資材高を価格に反映できる仕組み、補助等)	④参考意見 いただいたご意見は、今後の取組みの参考とさせていただきます。
1-76	目標3 現状と課題	「目標3【現状と課題】福祉の担い手不足」 「施策」では課題に十分に触れられていないように感じる。福祉全体の枠組みを考えるうえで非常に大きなテーマであるため、もっとクローズアップされるべきである。	②修正・追加・削除 総論の「視点」に記載を追加し、施策については今後、原案を作成するうえで、記載内容を検討する。
1-77	担い手・人材	「目標3【現状と課題】福祉の担い手不足の深刻化」 手当や給与が仕事内容に見合った水準であることが重要と考える。	③検討 今後、原案を作成するうえで、記載内容を検討する。
1-78	困窮者支援	経済的な困窮によって病院に行きたくても行けない人が増えている実態がある。必要な時に医療にかかれる体制を整えるのも行政の役割だと思うので、医療機関を支える、市民がいざという時には安心して病院にかかれる支援を市としても、充実させてもらいたい。	④参考意見 いただいたご意見は、今後の取組みの参考とさせていただきます。
1-79	普及啓発	「施策3-1①持続可能な福祉サービスの提供体制の確保」 福岡市と介護事業者が連携し、若い世代や日本での就労を希望する外国人に、介護業界を選んでもらうための取組みを推進してもらいたい。	④参考意見 介護事業所における国内外からの介護人材確保を支援するため、福岡市や介護のPR、関係機関との連携などに取り組んでいる。より多くの人に介護業界を選んでもらえるよう、今後も努めていく。

意見が出た
専門分科会

高齢

高齢

高齢

障がい

高齢

障がい

障がい

障がい

障がい

健康

高齢

No	分類	意見	対応
1-80	先端技術の活用	「施策3-1①持続可能な福祉サービスの提供体制の確保」 AIなどの先端技術の活用等について、「検討を進める」と記載されているが、昨今のAI技術の急速な進歩と本計画の計画期間が令和14年度までであることを考えると、「事業所への導入を図る」「事業所への導入を支援する」等のより踏み込んだ記載にしてほしい。	②修正・追加・削除 「施策3-1①持続可能な福祉サービスの提供体制の確保」の「ODXの推進、AIの活用」に事業所へのAIの導入・活用支援に関する記載を追加。
1-81	がん検診	「施策3-1⑤がん・難病対策の推進」 がん検診の受診率向上に向けた取組みをさらに進めてほしい。	③検討 今後、原案を作成するうえで、記載内容を検討する。
1-82	啓発	「施策3-1⑥医療体制の充実」 「医療施設及び薬事施設に対する指導や啓発」とあるが、具体的にどんな指導・啓発をするのかわかりにくいので、記載を工夫してほしい。	③検討 今後、原案を作成するうえで、記載内容を検討する。
1-83	普及啓発	「施策3-1⑥医療体制の充実」 「ジェネリック医薬品の使用促進についての市民への啓発」とあるが、現状、市民への啓発はかなり進んでいると認識している。さらに何を啓発していくのかわかりにくいので、記載を工夫してほしい。	③検討 今後、原案を作成するうえで、記載内容を検討する。
1-84	啓発	「施策3-1⑥医療体制の充実」 医療安全に関する研修について、医療安全は非常に多岐にわたっているため、どの施設でも共通する目標(国際患者安全目標)を取り入れて、市で啓発するのがよいと思う。	④参考意見 いただいたご意見は、今後の取組みの参考とさせていただきます。
1-85	担い手・人材	「施策3-1⑥医療体制の充実」 「市立急患診療所の従事者の確保」とあるが、歯科急患診療所は含まれているのか。歯科急患診療所において、人員確保に苦労しているため、市でも従事者の確保に力を注いでほしい。	④参考意見 いただいたご意見は、今後の取組みの参考とさせていただきます。
1-86	施策の方向性	「施策3-2①強度行動障がいのある人や医療的ケアが必要な障がい児・者、その家族への支援」 強度行動障がいについても、高齢施策のように、障がい深刻化する前の段階での支援策をしっかりと検討してほしい。	③検討 今後、原案を作成するうえで、記載内容を検討する。
1-87	他局との連携	「施策3-2②ヤングケアラー、ビジネスケアラーへの支援」 ヤングケアラーは表面化しづらいため、子育て分野とも連携して支援を進めてほしい。	④参考意見 いただいたご意見は、今後の取組みの参考とさせていただきます。
1-88	住まい	「施策3-3①住まいの確保と居住支援」 身寄りのない高齢者の支援や孤独死対策として、空き家を活用し、小地域に交流スペース等の拠点を多数整備することで、地域福祉の見守り機能を強化できるのではないか。	③検討 素案には「【施策1-3】③活動を担う人材の育成・場づくり」に、空き家の福祉的活用に関して記載している。今後、原案を作成するうえで、具体的な取組みの記載を検討する。
1-89	住まい	「施策3-3①住まいの確保と居住支援」 高齢者、特に単身高齢者が市営住宅等の公的住宅に入居したくても、ほとんど入居できない状況が続いている。この課題解決に向けた取組みに力を入れてほしい。	④参考意見 単身高齢者をはじめとする高齢者の居住の安定確保については、市営住宅を中核としつつ、公的賃貸や民間賃貸を含む賃貸市場全体で対応することとしている。市営住宅では定期募集における入居優遇、民間賃貸住宅では住まいサポートふくおかによる円滑な入居支援等を行っており、引き続き取り組んでいく。
1-90	住まい	「施策3-3①住まいの確保と居住支援」 精神障がいのある人は一般賃貸住宅の契約が困難な現状にある。障がいがあっても安心して家を借りることができる環境づくり及び障がい理解の促進や啓発の取組みを進めてほしい。	③検討 今後、原案を作成するうえで、記載内容を検討する。
1-91	福祉用具	「施策3-3②日常生活の支援」 福祉用具については、より良いものを給付対象に取り入れるよう積極的に検討してほしい。	④参考意見 いただいたご意見は、今後の取組みの参考とさせていただきます。

意見が出た
専門分科会

高齢

健康

健康

健康

健康

健康

障がい

障がい

高齢

高齢

障がい

障がい

No	分類	意見	対応	
1-92	日常生活用具	「施策3-3②日常生活の支援」 日常生活用具給付費の上限額を物価などにスライドする形を導入してもらいたい。	④参考意見 いただいたご意見は、今後の取組みの参考とさせていただきます。	意見が出た 専門分科会 障がい
1-93	食品衛生	「施策3-4②食品衛生・環境衛生の推進」 食品衛生の推進について、リスクコミュニケーションが一番重要だと思うので、力を入れて、その中で、アレルギーの問題や食品表示の内容を加えてもらうとういと思う。	④参考意見 いただいたご意見は、今後の取組みの参考とさせていただきます。	健康
1-94	薬物乱用・依存症	「3-4③薬物乱用及び薬物依存症の対策の推進」 麻薬、覚醒剤など、再犯をしている人は大勢いる中、この記載内容では現行計画とほとんど変わらない。	③検討 今後、原案を作成するうえで、記載内容を検討する。	健康
1-95	動物愛護	「施策3-4④動物愛護・適正飼育の推進」 ここにポツンと記載があるので違和感があるが、市では、「市動物愛護管理推進実施計画」において、「人と動物との調和のとれた共生社会の実現」を目標に掲げており、その一環でここに記載しているのだろうと理解はできる。人と動物との共生社会の実現となると、人獣共通感染症や災害時のペット対策にも触れる必要がある。今後、動物愛護が計画や施策の柱になるのであれば、計画の中に自然な形で「人と動物との共生」の記載があるとありがたい。	③検討 今後、原案を作成するうえで、記載内容を検討する。	健康
1-96	防災	「施策3-5 災害への備えの充実」 市が良い取組み(防災アプリ、耳で聴くハザードマップなど)をしても、PRが不足していると感じる。障がい者団体で紹介できるため、積極的に情報提供してもらいたい。	④参考意見 いただいたご意見は、今後の取組みの参考とさせていただきます。	障がい
1-97	防災	「施策3-5 災害への備えの充実」 避難行動要支援者名簿の登録者が増えないことが課題である。例えば障害者手帳の交付時に案内するなど、要配慮者の登録をどう進めるか、当事者も行政も考えていく必要がある。	④参考意見 いただいたご意見は、今後の取組みの参考とさせていただきます。	障がい
1-98	防災	「施策3-5 災害への備えの充実」 防災訓練の情報がいつでも入手でき、障がい者が参加しやすいことがユニバーサルな防災訓練だと思う。避難所も、安全で窮屈ではなく、あの避難所ならまた行っても良いという気持ちになれるような避難所がユニバーサルな避難所だと思う。 可能であれば、防災に関しても「ユニバーサル都市」になぞらえ、「ユニバーサル防災都市」という文言を取り入れ、福岡市として一歩前進してもらいたい。	④参考意見 いただいたご意見は、今後の取組みの参考とさせていただきます。	障がい
1-99	防災	「施策3-5①見守りと災害時の助け合いの連携」 避難行動要支援者名簿に、障がい者の登載が進んでいない。障害者手帳を交付する際に、名簿への登録を促すような取組みを検討してほしい。	④参考意見 いただいたご意見は、今後の取組みの参考とさせていただきます。	地域
1-100	防災	「施策3-5①見守りと災害時の助け合いの連携」 地域での避難訓練等は自治協中心で行っているが、その活動にもう少し社協が関わるような体制を考えてもらいたい。	④参考意見 いただいたご意見は、今後の取組みの参考とさせていただきます。	地域
1-101	防災	「施策3-5①見守りと災害時の助け合いの連携」 災害時に支援を要する要配慮者について、地域における情報共有の仕組みがあるとよい。	④参考意見 いただいたご意見は、今後の取組みの参考とさせていただきます。	地域
1-102	防災	「施策3-5①見守りと災害時の助け合いの連携」 災害を想定し、支援を要する人がどこにいるのか、地域でしっかりと把握できるルールを作ってほしい。	④参考意見 いただいたご意見は、今後の取組みの参考とさせていただきます。	地域
1-103	防災	「施策3-5①見守りと災害時の助け合いの連携」 避難行動要支援者名簿や個別避難計画について、行政は民生委員任せにするのではなく、行政と地域が協力して進める仕組みが必要と考える。	④参考意見 いただいたご意見は、今後の取組みの参考とさせていただきます。	障がい

No	分類	意見	対応
1-104	防災	「施策3-5②災害時の保健医療福祉体制の充実」 県栄養士会でも災害時の栄養支援チームができていますので、記載に加えてもらいたい。	①事務局案のとおり 関係機関等に県栄養士会も含まれていると認識しているが、関係機関は多数あり、具体の記載は難しいため。
1-105	防災	「施策3-5②災害時の保健医療福祉体制の充実」 災害時に、栄養バランスのとれた食事についての啓発ができたらと思う。	④参考意見 いただいたご意見は、今後の取組みの参考とさせていただきます。
1-106	防災	「施策3-5②災害時の保健医療福祉体制の充実」 各論の充実が必要だと思う。大規模災害時、市と県の関係がいつも問題になっている。現状、福岡でも、県と市の連携ができていない。市では、保健所を中心に、地域での保健医療を考えていき、県では、DMAT(災害派遣医療チーム)の派遣などを国と考えていくので、その連携ができてこそその体制の充実となるので、もう一度検討してもらいたい。	③検討 今後、原案を作成するうえで、記載内容を検討する。
1-107	その他	「施策3-5②災害時の保健医療福祉体制の充実」 「平時から福岡市医師会や福岡県などの関係機関等と連携」とあるが、市医師会は団体、福岡県は地域となっているので、福岡県は、県医師会なのか県対策本部なのか、もう少し具体的に対象を絞って記載した方がよいと思う。	③検討 今後、原案を作成するうえで、記載内容を検討する。
1-108	その他	「施策3-5②災害時の保健医療福祉体制の充実」 「福岡県などの関係機関等と連携」とあるが、災害時の医薬品等の供給に関しては薬剤師もしっかりと協力する予定があるので、「等」の中に、薬剤師(あるいは薬局、薬剤師会)は含まれるのか確認したい。	①事務局案のとおり 関係機関等に薬剤師会は含まれている。
1-109	防災	「施策3-5③福祉避難所運営体制の検討、充実」 「福祉避難所の円滑な開設」について、どこか中核的な施設で大規模災害を想定したシミュレーションを様々な分野の関係者や当事者も含めて一度実施することができれば実際に災害が起きた際の対応が大きく変わると思う。	③検討 今後、原案を作成するうえで、記載内容を検討する。
1-110	防災	「施策3-5③福祉避難所運営体制の検討、充実」 福祉避難所は、高齢者や障がい者の分野をどうするか、どう構築していくかを全体を見渡しながら進めてもらいたい。	③検討 今後、原案を作成するうえで、記載内容を検討する。

意見が出た
専門分科会

健康

健康

健康

健康

健康

障がい

障がい

○令和7年度第2回保健福祉審議会専門分科会

No	分類	意見	対応
2-1	国の動き	「4 計画策定の背景(2)国の動き」 医療法等の一部改正(地域医療構想の見直し等)に関する記載を追加してはどうか。	③検討 今後、原案を作成するうえで、記載内容を検討する。
2-2	計画策定の背景	「4 計画策定の背景(3)福岡市の状況」 「障がいのある人の推移」のグラフに発達障がいがない。 知的や精神と発達障がいとは別ものと考えため、並べて記載するのが適当と考える。	②修正・追加・削除 発達障がいの状況に係るグラフを追加する。
2-3	総論の全体構成	「6 計画推進にあたっての基本的な視点」 「7 計画の推進」と「計画推進」という文言が重複している。その結果「6」が「7」を行うための基本的な視点であるかのように読めるため、「6」から「計画推進」という文言を落として、「基本的な視点」とするなど、表現を見直した方がよい。	②修正・追加・削除 「6 計画の基本的な視点」に修正する。
2-4	その他	「6 計画推進にあたっての基本的な視点 視点1 共創・共働、産学官民オール福岡の推進」 Well-being(健康・幸福・福祉)と日本語もいれてほしい。	③検討 用語の説明は今後、原案を作成する際に整理し、用語集への掲載を検討する。
2-5	その他	計画に記載の障がい者には、難病患者も含まれるのか。	②修正・追加・削除 障がいのある人の中には難病患者も含まれる。含まれることがわかるよう、「4 計画策定の背景(3)福岡市の状況」にグラフを追加する。
2-6	事業指標	「施策1-1インクルーシブなまちづくり」 事業指標(例)「障がい者週間記念の集いの来場者数」については、成果指標(多様性が尊重されていると思う人の割合)との関連性が低いのではないかと。	④参考意見 いただいたご意見は、今後の事業指標検討の際の参考とさせていただきます。
2-7	障がい理解	「施策1-1②障がい理解・差別解消の推進」 地域の講座等への障がい当事者等の講師派遣にあたり、講師の対象に事業所の従事者も含めてほしい。	④参考意見 いただいたご意見は、今後の取組みの参考とさせていただきます。
2-8	終活	「施策1-2①人生100年時代の生き方を考えるための支援」 エンディングノートの名称に少し抵抗がある。これからの未来に向けた前向きな名称は、募集すればいいアイデアが集まると思う。	④参考意見 エンディングノートという名称に抵抗を感じる人がいる一方で、名称自体は広く認知されていることから、医療と介護の連携に携わる各区の職員とも検討し、タイトルに「わたしが伝えたい大切なこと」を併記している。いただいたご意見は、今後の取組みの参考とさせていただきます。
2-9	支援体制	「施策1-2②身寄りのない人の支援」 身寄りのない高齢者等については、死後事務が大きな課題となっている。死後事務については、専門性が必要であり制度がカバーすべきところである。厚労省で設計が進んでいる新たな制度を確実に実施していく体制整備が重要だと思う。	③検討 国での議論も踏まえ、原案作成に向けて今後検討していく。
2-10	孤独・孤立対策	「施策1-2②身寄りのない人の支援」 死後事務委任契約に至るまでには、葬儀・納骨などの意思決定、遺言作成などハードルが高い。そこに至る前の人をフォローするために、身寄りのない当事者同士のつながりづくりを行ってはどうか。孤独・孤立の解消、見守りにもつながると思う。	④参考意見 いただいたご意見は、今後の取組みの参考とさせていただきます。
2-11	孤独・孤立対策	「施策1-2②身寄りのない人の支援」、「施策1-2④孤独・孤立の防止」 「身寄りのない人」や「孤独・孤立である人」の定義については、国でも議論されているが、計画上の定義や、より力を入れていく対象について、はっきりさせていくとよいと思う。	③検討 国での議論も踏まえ、原案作成に向けて今後検討していく。

意見が出た
専門分科会

健康づくり

障がい

高齢

障がい

障がい

障がい

障がい

地域

地域

地域

地域

No	分類	意見	対応
2-12	終活	「施策1-2②身寄りのない人の支援」 終活について、お金を出せば民間の終活サービスなどを利用することができるが、行政は、低所得者も含め、誰でも人生最後まで安心して暮らし続けるためのフォローを行うことが必要であり、そのあたりを計画に書き込んでいく必要がある。 社協が現在取り組んでいる「終活サポートセンター」の充実が大切だと考えている。	③検討 国での議論も踏まえ、原案作成に向けて今後検討していく。
2-13	終活	「施策1-2②身寄りのない人の支援」、「施策1-2④孤独・孤立の防止」 終活の相談の中には、将来一人ぼっちになることを心配している人も多い。今のうちからつながりを作るよう啓発することも大切であるし、趣味や特技を活かせるテーマ型などのコミュニティができるような仕掛けも必要になると思う。	④参考意見 いただいたご意見は、今後の取組みの参考とさせていただきます。
2-14	その他	「施策1-2③権利擁護の推進」、「施策3-3②日常生活の支援」 「施策3-3②」は、買い物支援や移動支援などを「日常生活の支援」としているが、「施策1-2③」での日常生活支援とは異なるため、言葉の整理をした方がいいと思う。	③検討 「施策1-2③」の日常生活支援は、社協が実施する「日常生活自立支援事業」のことであり、原案作成するうえで事業内容が分かるよう、記載方法を検討する。
2-15	権利擁護	「施策1-2③権利擁護の推進」 「認知症や知的障がい、精神障がいなどで判断能力が十分でない人等」の表現に、発達障がいも併記すべきではないか。	③検討 今後、原案を作成するうえで、記載内容を検討する。
2-16	権利擁護	「施策1-2③権利擁護の推進」 「認知症や知的障がい、精神障がいなどで判断能力が十分でない人等」の表現について、生活機能が十分でない人の記載も検討してはどうか。	①事務局案のとおり 施策「1-2③権利擁護の推進」の日常生活支援(社協が実施する「日常生活自立支援事業」を指す)及び成年後見制度については、認知症や知的障がい、精神障がいなどで判断能力が十分でない人等の金銭管理などの権利行使や、意思決定を支援する制度であり、対象となる方は素案に記載のとおりとなる。 なお、障がいなどで生活機能が十分でない人への適切な福祉サービス・支援の提供については目標3などに記載する。
2-17	孤独・孤立対策	「施策1-2④孤独・孤立の防止」 地域で孤独・孤立に陥っている人に一歩踏み込んで働きかけるため、社協でも協議されている、個人情報や地域の共有の仕組みなどをきちんと考え、孤立している人、身寄りのない人に対して、市の取組みを届けていく必要があると考える。	④参考意見 いただいたご意見は、今後の取組みの参考とさせていただきます。
2-18	孤独・孤立対策	「施策1-2④孤独・孤立の防止」 「様々な主体と連携」とあるが、「様々な主体」が何を指すのか分からない。 孤独・孤立を抱えた地域住民に一番接しているのは、民生委員、校区社協(ふれあいネットワーク)、地域包括支援センターであり、そういった主体の例示を、きちんと記載すべきである。	③検討 今後、原案を作成するうえで、記載内容を検討する。
2-19	孤独・孤立対策	「施策1-2④孤独・孤立の防止」、「施策1-3③活動を担う人材の育成、場づくり」 孤独・孤立に関しては、なじみの人や場所があるかどうかが重要である。高齢になってから地域活動に入っていくことは難しいので、若い世代も一緒に参加できるような取組みを進める必要がある。また、子育て世代に地域に関わってもらうようアピールしていくことが必要であり、小学生などへの福祉教育の視点も重要ではないか。	④参考意見 いただいたご意見は、今後の取組みの参考とさせていただきます。
2-20	場づくり	「施策1-2④孤独・孤立の防止」 孤独・孤立の防止に向けた対策として重要なのは、居場所づくりと考える。ふれあいサロン、地域カフェ、食堂など色々な形態があるが、高齢者、障がい者、外国人、子どもなど誰でも利用できる属性横断型で、「いつ来て、いつ帰ってもいい」という自由な居場所づくりが大切になる。居場所については、支えられる側が支える側になったりする共生型が、地域共生のコンセプトそのものではないかと思う。	③検討 今後、原案を作成するうえで、記載内容を検討する。

意見が出た
専門分科会

地域

地域

地域

障がい

障がい

地域

地域

地域

地域

No	分類	意見	対応
2-21	場づくり	「施策1-2④孤独・孤立の防止」、「施策1-3③活動を担う人材の育成、場づくり」 孤独・孤立の防止に向けて、居場所づくりが大変重要であり、施設の使用目的や使用対象者を広げていくなど、既存の施設の有効活用も検討する必要があると考える。 例えば「福岡100プラザ」では、ユニークな取組みが広がっているが、高齢者を対象とするなど、利用の制限がある。障がい者や子どもも参加できるプログラムを作るなど、できるだけ多くの人が利用できるような対応を考えてほしい。	④参考意見 いただいたご意見は、今後の取組みの参考とさせていただきます。
2-22	場づくり	「施策1-2④孤独・孤立の防止」、施策1-3③「活動を担う人材の育成、場づくり」 地域カフェやふれあいサロンなど、地域の居場所づくりは非常に重要である。高齢者が運営していることが多い中、学生・企業の人などを活用しながら、持続可能な仕組みをつくるのが大切だと考える。	③検討 素案には、地域福祉活動を担う人材の育成・場づくりに関して記載している。今後、原案を作成するうえで、具体的な取組みの記載を検討する。
2-23	認知症施策	「施策1-2⑤認知症フレンドリーシティプロジェクトの推進」 認知症の人、主体性・自立性の尊重が重要であるため、「認知症になっても個人の尊厳を保持しつつ、希望を持って暮らすことができるよう…」の記述については、例えば「認知症になっても、自立性や個人の尊厳を保持しつつ暮らすことができるよう…」としてはどうか。	①事務局案のとおり 認知症基本法の基本理念より引用しているため、原案のとおりとする。
2-24	認知症施策	「施策1-2⑤認知症フレンドリーシティプロジェクトの推進」 「希望を持って」の文言は、「認知症の人がストレスなく安心して暮らせる環境の整備」や「認知症の人や認知症の人を支える人の社会参加と活躍を推進」の記述で内容をカバーできているので、記載不要ではないか。	①事務局案のとおり 認知症基本法の基本理念より引用しているため、原案のとおりとする。
2-25	認知症施策	「施策1-2⑤認知症フレンドリーシティプロジェクトの推進」 認知症フレンドリーシティに向け、地域では具体的にどう取り組んでいくのか。 認知症について学ぶ講座等は地域で実施しているが、そういった取組みの評価は課題として残っていると思う。	③検討 今後、原案を作成するうえで、記載内容を検討する。
2-26	担い手・人材	「施策1-3①地域福祉活動の支援」 「民生委員の活動しやすい環境づくりを推進」について、民生委員の充足率が100%になることを目指すような、目標のようなものを記載できないか。	④参考意見 いただいたご意見は、今後の取組みの参考とさせていただき、引き続き、民生委員の活動しやすい環境づくりに取り組む。
2-27	担い手・人材	「施策1-3①地域福祉活動の支援」 民生委員の活動は、例えば訪問中に孤独死に遭遇するなど、非常に大変な面があり、なり手不足が深刻化している。今の民生委員の仕組みを今後も継続できるよう、行政にもしっかりと考えてもらいたい。	④参考意見 いただいたご意見は、今後の取組みの参考とさせていただきます。
2-28	場づくり	「施策1-3①地域福祉活動の支援」 例えば、麻雀やルーレットのような一見遊んでいるようにしか見えないことが、専門家から見ると高齢者の機能回復につながっているという事例も多くある。地域福祉活動が活発に行われるためには、支援や福祉という観点を一度外して考えることが大切である。こういったことを計画にも何かしら盛り込むことで、地域で活動を行う人々の指針にもなりうるのではないかと。	④参考意見 いただいたご意見は、今後の取組みの参考とさせていただきます。
2-29	地域への支援	本来、専門性のある人たちが担ってきた領域を、地域が担わざるを得ない状況になっており、それに対して何もケアがない状況がある。「地域はここまでやってくれば十分」「これ以上抱え込む必要はない」というような認識を作っていくことで、地域福祉に関わる人のモチベーションを高めることもできると思う。	④参考意見 いただいたご意見は、今後の取組みの参考とさせていただきます。

意見が出た
専門分科会

地域

地域

地域

地域

地域

地域

地域

地域

地域

No	分類	意見	対応
2-30	地域への支援	家族が担ってきた介護のケア負担が、地域が担うようにシフトしている実情がある中、全てを地域に押し付けるのではなく、バランスが課題になると感じる。 また、地域で孤立死などが発生した場合、地域をケアする民生委員をケアするような仕組みも必要だと感じる。	④参考意見 いただいたご意見は、今後の取組みの参考とさせていただきます。
2-31	支援体制	「施策1-3②見守りと支え合い活動の推進」 福岡市には様々な制度があるが、制度が活用されていないことが多いと感じる。「ここに行けば制度につながる」というワンストップな窓口が求められていると思う。	④参考意見 各区役所に福祉の総合相談窓口である「ぬくもりの窓口」を開設している。いただいたご意見は、今後の取組みの参考とさせていただきます。
2-32	場づくり	「施策1-3②見守りと支え合い活動の推進」 高齢者が地域とつながるためには、高齢者になってからでは遅い。例えば、定年退職し、国民健康保険に切り替わるタイミングなどで、地域活動とつなぐような場が作れるとよいと思う。	④参考意見 いただいたご意見は、今後の取組みの参考とさせていただきます。
2-33	担い手・人材	「施策1-3③活動を担う人材の育成・場づくり」 福岡市には、地域在宅看護を学ぶ大学が5つくらいある。個人を地域福祉活動につなぐ取組みだけでなく、大学などの教育機関と、社協や公民館など組織と組織をつなぐことが、人材確保・育成に重要ではないかと思う。	③検討 素案には、地域福祉活動を担う人材の育成・場づくりに関して記載している。今後、原案を作成するうえで、具体的な取組みの記載を検討する。
2-34	担い手・人材	「施策1-3③活動を担う人材の育成・場づくり」 公民館など地域に身近な場所で、誰でも立ち寄れるカフェなどが毎日開催され、住民のお困りごとを聞く場があるとよいと思う。誰が担い手となるかが課題であるが、ポイント制など、担い手の方にもメリットのあるような仕組みができるとよいと思う。	④参考意見 いただいたご意見は、今後の取組みの参考とさせていただきます。
2-35	その他	「施策1-4①包括的支援体制の充実 ○医療・介護の連携」 「施策3-1 適切な医療の提供、福祉サービス・支援の実施」 医療と福祉の連携について記載があるが、保健の連携が不可欠である。予防を強調する上でも、医療と福祉だけでなく保健も施策に明記した方がよいのではないか。	③検討 今後、原案を作成するうえで、記載内容を検討する。
2-36	包括的な支援	「施策1-4①包括的支援体制の充実 ○障がいのある人の支援体制」 地域で安心して生活し続けることができる支援、包括的な組織の中に地域と記載があるが、自治協議会や民生委員など本来の地域支援が入っていない。	①事務局案のとおり 自治協議会や民生委員活動の支援に関する内容は、「施策1-3①地域福祉活動の支援」に記載している。
2-37	担い手・人材	「施策1-4②複合的な課題に対する支援の強化」、「施策1-4③相談支援体制の充実」 複合化・複雑化した課題や、制度の狭間の課題に対応するために、ぬくもりの窓口、地域包括支援センター、障がい者基幹相談支援センターなどの窓口に、福祉に関するしっかりとしたスキルを持った専門職を配置してもらいたい。	④参考意見 いただいたご意見は、今後の取組みの参考とさせていただきます。
2-38	広報	「施策1-4②複合的な課題に対する支援の強化」 福岡市が提供している様々なサービス、ぬくもりの窓口などの相談窓口などについて、若い人はインターネット等でいくらかでも調べられるが、高齢になるとなかなか難しく、知らずに困っている人が多いと思う。そういったサービス・相談窓口を、市民に広く認知してもらうための施策を強化してほしい。	④参考意見 ぬくもりの窓口については、チラシの配布や市政だより、HPを活用した周知・広報に取り組んでいる。いただいたご意見は、今後の取組みの参考とさせていただきます。
2-39	事業指標	「施策1-4包括的な支援の仕組みづくり」 現在、地域包括ケアの取組みの中で、地域における支援体制の整備や関係機関との連携強化を進めている。特に地域ケア会議や圏域連携会議等の実施に力を入れており、開催件数も増加している。これらの会議の開催件数を事業指標に加えることを検討してほしい。	④参考意見 いただいたご意見は、今後の事業指標検討の際の参考とさせていただきます。

意見が出た
専門分科会

地域

地域

地域

地域

地域

健康づくり

障がい

地域

地域

高齢

No	分類	意見	対応	意見が出た 専門分科会
2-40	飲酒に関する取組み	「施策2-1①生活習慣の改善 ○飲酒」 福岡市国民健康保険医療費適正化計画を見ると、市は全国と比べて男女とも1日の飲酒量が多く（特に女性の「1日の飲酒量が3合以上」の割合は全国の2倍以上）、また尿酸値も高い。尿酸値が高いのは飲酒の影響によるものと思われるため、飲酒に関する取組みを強く記載した方がよいのではないか。	④参考意見 いただいたご意見は、今後の取組みの参考とさせていただきます。	健康づくり
2-41	活動支援	「施策2-1④こころの健康づくり」 精神保健福祉協議会には福岡家族連合会有り、当事者や家族の相談等の支援活動を行っている。活動継続のために助成金が必要であり、その点についても取組みの中に入れてほしい。	④参考意見 いただいたご意見は、今後の取組みの参考とさせていただきます。	障がい
2-42	こころの健康づくり	「6 計画推進にあたっての基本的な視点 視点5 AIをはじめとした先端技術の活用の推進」、「施策2-1④こころの健康づくり」 「視点5」に異論はないが、先端技術の活用にあたっての健康面のリスクを配慮すべきと思う。具体的には、「施策2-1④」に、デジタルデバイス利用のメンタルヘルスへの影響について記載してはどうか。	④参考意見 いただいたご意見は、今後の取組みの参考とさせていただきます。	健康づくり
2-43	子どもの心の健康	「施策2-1⑤ライフコースアプローチを踏まえた健康づくり ○子どもの健康づくり」 ヘルスリテラシーのみ記載があり、体の健康のこころしか触れられていない。子どもの自殺も増えており、子どもの心の健康確保は喫緊の課題である。「第6次福岡市子ども総合計画」では、「③健やかな心身の育成」の主な関連事業に「情報モラル教育の推進」があるが、この取組みを保健福祉総合計画で取り上げる（事業指標として活用する等）ことを検討してはどうか。	④参考意見 いただいたご意見は、今後の事業指標検討の際の参考とさせていただきます。	健康づくり
2-44	近視への対策	「施策2-1⑤ライフコースアプローチを踏まえた健康づくり ○子どもの健康づくり」 近視対策について、文部科学省からの啓発文書を市立小学校で配布するだけでは取組みとして不十分と思う。まずはデータを取ることが重要と思うので、例えば、事業指標として、「福岡市立小学校における近視の児童の割合」を設定するなどを検討してはどうか。	④参考意見 学校における児童生徒の眼科の健康診断は、学校生活での見え方を把握することを目的としており、眼鏡やコンタクトレンズを常用している児童については、矯正視力の検査は実施するが、裸眼視力の検査は省略することができる。実態に即した近視児童数の把握等は難しいと考えているが、いただいたご意見は、今後の学校における健康教育推進の取組みの参考とさせていただきます。	健康づくり
2-45	場づくり	「施策2-2②地域や職域などでの健康づくりの推進」 健康づくり教室や介護予防教室を開いても、なかなか人は集まりにくいので、地域カフェやふれあいサロンを活用し、人が集まる場所で健康づくりの取組みを行ってはどうか。すでに取り組んでいる地域もあると思うが、施策の中に入れてもらいたい。	②修正・追加・削除 施策2-2②を「地域の特性にあわせた健康づくり講座等を様々な機会を捉えて実施」に修正する。	地域
2-46	難病患者への支援	「施策2-3④障がいのある人の外出・移動の支援」 障害者手帳を持たない難病患者は福祉乗車券の対象外で、通院の交通費負担が大きい状況の人もいるため、支援対象の拡大を検討してほしい。	④参考意見 いただいたご意見は、今後の取組みの参考とさせていただきます。	障がい
2-47	認知症施策	「施策3-1③認知症の人や家族への支援」 「地域における認知症の人への支援体制及び連携体制を充実・強化」とあるが、原案作成にあたっては、地域における具体的な取組みを記載してほしい。	③検討 今後、原案を作成するうえで、記載内容を検討する。	地域
2-48	事業所の指定	「施策3-1④適切な障がい福祉サービスの実施」 小さな事業所が乱立すると、人材の分散や教育、マネジメントができないなどの課題があるため、指定のあり方も含め考えなければならない。	④参考意見 いただいたご意見は、今後の取組みの参考とさせていただきます。	障がい
2-49	不正防止	「施策3-1④適切な障がい福祉サービスの実施」 障がい福祉サービスにおいて、全国的にも不正問題が起こっているため、書類の確認だけでなく、利用者への直接確認なども必要ではないか。	④参考意見 いただいたご意見は、今後の取組みの参考とさせていただきます。	障がい

No	分類	意見	対応
2-50	事業指標	「施策3-1適切な医療の提案および福祉サービス・支援の実施」 事業指標(例)「病院における事業継続計画(BCP)の策定率」については、成果指標(医療の充実に 関する満足度)との関連性が低いのではないか。	④参考意見 いただいたご意見は、今後の事業指標検討の際の参考とさせていただきます。
2-51	強度行動障がいのある 人への支援	「施策3-2①強度行動障がいのある人や医療的ケアが必要な障がい児・者、その家族への支援」 発達障がいから強度行動障がいになる人もいる中で、「発達障がい」について記載が全くないのは 違和感がある。	③検討 今後、原案を作成するうえで、記載内容を検討する。
2-52	強度行動障がいのある 人への支援	「施策3-2①強度行動障がいのある人や医療的ケアが必要な障がい児・者、その家族への支援」 強度行動障がいについて、強度行動障がいになる手前での予防策等が計画には具体的にどのよう に盛り込まれるのか。	③検討 強度行動障がいのある支援のあり方について検討する福岡市強度行動障がい者支援調査研 究会において、児童期からの強度行動障がい予防に関する実施手法等を検討している。 今後、原案を作成するうえで、記載内容を検討する。
2-53	施設整備の支援	「施策3-2①強度行動障がいのある人や医療的ケアが必要な障がい児・者、その家族への支援」 短期入所や福岡市に不足している療養介護の整備も重要であり、医療側の認知不足や大規模施設 の必要性、土地確保の難しさがあるため、行政による支援も必要と考える。	④参考意見 いただいたご意見は、今後の取組みの参考とさせていただきます。
2-54	担い手・人材	強度行動障がいへ移行しないよう適切な支援を講じることが大切であり、専門的な支援を行う人材 の育成も大事である。	③検討 強度行動障がいのある支援のあり方について検討する福岡市強度行動障がい者支援調査研 究会に、発達障がい者支援センターを加え、意見交換・情報共有を実施している。今後、 原案を作成するうえで、記載内容を検討する。
2-55	防災	「施策3-5 災害への備えの充実」 避難行動要支援者名簿に障がいの登録が少ない原因を検証し、解決方法を考えてほしい。また、 障がい者団体や地域、社会福祉協議会、民生委員など関係者で話し合う場を設けてほしい。	④参考意見 名簿への登録について、身体障害者手帳1・2級、精神障害者手帳1級、療育手帳Aをお 持ちの人には、地域への名簿情報提供について意向確認を行っており、要件に該当しな い方も自己申告により登録可能としている。そのため、障がいの登録人数の多い少な いの相対的評価は難しいが、障がい福祉ガイドでの制度紹介や自己申告書のホーム ページでの公開、各区保健センター窓口で配布などにより、名簿登録を希望する人へ周 知していく。また、関係者で話し合う場については、ご意見を踏まえ、取組みの参考と させていただきます。
2-56	防災	「施策3-5①見守りと災害時の助け合いの連携」 避難行動要支援者名簿の情報共有について、災害時、対象者にとって有利と判断される場合には情 報を開示できるようにするなど、誰でもわかる仕組みを作ってほしい。	①事務局案のとおり 災害の発生または発生するおそれがある場合において、要支援者の生命または身体を 保護するために特に必要があると認めるときは、避難支援等の実施に必要な限度で、警 察、自衛隊その他の避難支援等の実施に携わる関係者に提供することとしている。
2-57	防災	「施策3-5②災害時の保健医療福祉体制の充実」 医療体制に関する記載が少ないため、福祉サービスの提供やDWATに関する記載の追加を検討し てはどうか。	③検討 今後、原案を作成するうえで、記載内容を検討する。
2-58	事業指標	「施策3-5災害への備えの充実」 事業指標に、バリアフリー防災訓練を入れてほしい。	④参考意見 いただいたご意見は、今後の事業指標検討の際の参考とさせていただきます。

意見が出た
専門分科会

障がい

障がい

障がい

障がい

障がい

障がい

地域

高齢

障がい